

衆議院議員(無所属) レポート⑥ じん

# まつばら仁



## 日本版ニューディール

現代貨幣理論  
MMT的発想で経済の活性化を

大学生インターン ボランティア 若き政治家志望者 募集中!

お手伝い頂ける方を募集しています  
発送作業・ビラ折・電話かけなど

ネット上でも最新情報発信中  
公式ホームページ: WWW.jin-m.com

Twitter LINE Facebook

松原仁事務所 東京都品川区東大井5-17-4 03-5783-2511 E-メール: info@jin-m.com

# 衆議院議員 まつばら仁と国会へ行こう!!

★12月は冬休み企画

開催日

12月木 26日  
12月金 27日  
2月月 10日



お申し込み多数の場合、お申し込みをキャンセルさせていただきます。ご了承ください。お誘い合わせの上お気軽にご参加下さい。

国会ならではの見どころをご案内いたします。

- 全行程徒歩で移動しますので、歩きやすい服装や靴でお越しください。
- 緊急の場合など、私、まつばら仁がご案内できない場合もありますので、あらかじめご承知ください。

●国会議事堂内では、一部エリアを除きカメラ撮影が可能です。

### 当日のスケジュール

9:50 集合 現地集合 衆議院第2議員会館【1Fロビー】  
※プロフィールカードを持ったスタッフがご案内します。

10:00~ 国会議事堂見学スタート  
国会議事堂正門にて記念撮影

12:00頃 議員会館内にて御食事  
※店舗メニューは異なる場合がございます。

13:00

参加費用 (弁当代・写真代・郵送料込み) 国会へ行こう! は毎月開催しております。  
1200円 上記以降の日程は、まつばら仁事務所までお問い合わせ  
●乳幼児無料 ●交通費(各自負担) 合わせてください。

### 集合場所のご案内

千代田区永田町2丁目1番2号 衆議院第2議員会館1Fロビー

最寄駅 国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線) 1番出口徒歩5分  
永田町駅(有楽町線) 1番出口徒歩5分  
永田町駅(半蔵門線・南北線) 1番出口徒歩3分

お電話、FAX、メールにてご予約お申し込みください。  
まつばら仁事務所 03-5783-2511  
東京都品川区東大井 5-17-4 東山ビル4階 E-メール: info@jin-m.com

## 【松原仁と国会へ行こう!!】FAX 申込書 03-5783-2525

○御希望の日に丸をしてください。

参加希望日 1 12/26 (木) 2 12/27 (金) 3 2/10 (月) ご参加人数(ご自身含め) 計  名

ふりがな  住所

お名前  貴団体

お電話  団体名

携帯  メールアドレス

国政及び地域の課題等にご意見ご要望がある方は記載下さい。

# MMT(現代貨幣理論)的発想の 日本版ニューディールによる経済の活性化を

## 財政健全化という呪縛

先日、財務省幹部に日本の財政の行方について講演をしていただいた。その時の印象は、財務省が財政健全化に対して情熱を燃やしているということ。そして、日本の社会保障関係費が毎年1兆円近く伸びている現状においては、財源不足のために公共事業投資や、未来の産業に対する大型投資を控えめにせざるを得ないという必然が語られた。そこには年々増え続ける厚生労働省の予算に頭を抱える財務省の実相があり、その姿は言うなれば「厚生労働財務省」という印象すらあった。

このような社会保障関係費が増大する中で、財政健全化という正論の前で、世界経済における日本のプレゼンスはますます弱まり、世界のGDPに占める日本の割合は、この20年の間に18%から6%に下落し、30年前の水準にまで後退しており、更なる低下が予測されている。これは現代日本の経済的敗北を意味し、経済の活性化とは程遠い現状が見える。

1992年の時点では世界の企業の時価総額トップ50社中、日本の企業はNTT、大手銀行を含む10社がランクインしていたが、24年後の2016年版ではトヨタ1社のみとなり、「ジャパンアズナンバールワン」の栄光は見る影もない。アメリカの日本経済への姿勢を見ても、かつてのジャパンバッシング(日本叩き)から今やジャパンパッシング(日本素通り)という状態である。結論を言えば、こうした日本の経済規模の縮小と国際社会での存在感の低下は、プライマリー・バランスの健全化という道義的目的の追求によって生まれたといえる。

## 現代貨幣理論に基づく大胆な財政出動を

かつてアメリカのルーズベルト大統領は、ケインズ流の考え方に基づくニューディール政策を掲げ、テネシー渓谷のダム建設などの大規模な財政支出を伴う公共事業によって、1929年の大不況を乗り越えた。

一方、今日の我が国のデフレ不況はカネが循環せず、「紙」として保存され続けていることに問題がある。通貨は、動けばカネ、止まれば単なる紙切れである。今の日本は金(通貨)の移動が停滞した状況であり、人間の身体で言えば、血液循環が正常に機能していない状態である。こうした時に、人間であれば心臓を強く鼓動させ、新鮮な血液を身体中に押し出すことが必要である。同様に、日本中の金を動かすためには、国家の心臓部である政府が効果的な公共事業を行う財政出動が必要となる。

世界の国々は、リーマンショック以来、財政出動によってその不景気とデフレを脱却している。しかし日本は、プライマリー・バランスを重視するあまり、効果的な財政出動を躊躇し、世界経済に占める存在感が縮小してしまっている。

多くの識者が指摘するように、ミャンマーやタイ

などの発展途上国のように、他国から借金をして経済の成長のための財政出動をしている国と異なり、日本は外国からの借金がほとんどない。こうした特別な条件から、日本政府は大胆な財政出動を行う決断をするのに非常に有利な環境にある。これは、アメリカが大きなコストをかけて世界の基軸通貨を持つことにより得ている特別なメリットと、ほぼ同様のものと言える。

また現在、プライマリー・バランスの均衡が経済成長に有効ではないという学説が力を持つようになり、その実例は財政破綻に陥ったアルゼンチンとギリシャであると言われている。また、プライマリー・バランスの均衡に情熱を注いだドイツ経済は、日本に次いで経済成長が鈍化している。

そこで、今こそ、私たちは財政均衡至上主義のくびきから離れ、防災・減災の観点に立った国土強靱化や、次世代ビジョンに基づく未来型産業の育成に対する公共事業を、ルーズベルト方式で大胆に断行するべきである。それは危篤状態にある日本経済に電気ショックと胸椎圧迫による心臓マッサージを行う効果を持ちうると思われる。

## 令和の改革、日本版ニューディールを

ただし、日本人の美意識に根ざすいくつかの問題点が指摘される。その一つは、質素儉約が美德とされる国民性である。土光臨調の土光さんは朝、めざししか食べないという報道で、多くの国民の信頼を勝ち得た。日露戦争を指揮した軍人でも、児玉源太郎より乃木希典の方が人気があった。戦争の現場からすれば、作戦の精神的単純さから、自分の愛する息子を含め多くの日本兵を消耗させた乃木將軍よりも、軍艦を持って行って、旅順の要塞を一気呵成に陥落させた児玉將軍の方が軍師としては何枚も上手であろう。しかし日本人には、いわゆる「のむ、うつ、かう」を平然と行ったと言われる児玉將軍より、人格高潔な乃木大將の方が慕われる。それは経済改革を成功させ文化を繁栄させた田沼意次より、儉約で通る徳川吉宗の方が人気があるのと同様である。勿論、政治家に人格の高潔さが求められることは当然であるが、同時に、またそれ以上に実務的手腕も重要である。

私は、今こそ、敢えて蛮勇をふるい、泥をかぶつても令和の田沼意次となる決意で、減税と財政出動による経済活性化を実現すべきと考える。そして大胆で効果的な財政出動を躊躇なく行い、日本版ニューディールによる経済の再生に取り組み覚悟を新たにしている。

衆議院議員

松原仁